船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館館報

みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ・船橋 vol.12

平成31年3月

約１万年前の取掛西貝塚の竪穴住居内貝層断面

第12号

博物館ニュース [2]
船橋遺跡風景今昔２　～八栄北遺跡～ [3]
船橋の古文書３「カイジン」という地名、書けますか？ [4-5]
貝塚、その日そのひ２　友好都市西安（中国）の半坡遺跡 [6-7]
インフォメーション [8]

博物館ニュース

この項では、郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展や事業について、紹介しています。
今回は、平成 30 年度に両館で開催した企画展を取り上げます。

郷土資料館　企画展「モータースポーツと湾岸部の歴史」

平成 30 年 11 月 20 日㈫から 12 月 16 日㈰まで、郷土資料館の 1 階から 3 階までを使い、浜町・若松地区を中心とした湾岸部の歴史を振り返る企画展を開催しました。

12 月 2 日㈰、9 日㈰には学芸員によるギャラリーツアーを行いました。2 日㈰、9 日㈰、16 日㈰にはペーパークラフトのスポーツカーを作るワークショップを開催し、幅広い年代の方にご参加いただきました。

記念撮影ができるスポット

学芸員による展示解説（1 階）

会期中にいただいたアンケートには、企画展に対する感想のほか、「高校 1・2 年の時、船橋サーキットでアルバイトをしていました。日給 560 円から 650 円位でした」といった、ご自身の思い出についての記述もありました。展示を見ながら、青春時代の思い出を楽しそうに話す来館者も多く、館職員にとっても実りのある展示となりました。

飛ノ台史跡公園博物館　企画展「ここまでわかった！～１万年前の取掛西貝塚～」

平成 31 年 2 月 1 日㈮から 3 月 3 日㈰まで、1 階ギャラリーを会場として、これまでの調査で発見された貴重な資料を展示しました。

この企画展は、文化課・埋蔵文化財調査事務所との共催で行われ、これまで行われた速報展などで展示された資料のほか、現在、整理中の資料も併せて展示しました。2 月 9 日㈯・10 日㈰・11 日㈷に初めての無料観覧日を設定し、あわせて学芸員によるギャラリートークを行いました。無料観覧日はあいにくの降雪による悪天候でしたが多くの方が来館されました。

会 場 の 様 子

関東各地の特徴を持つ土器片

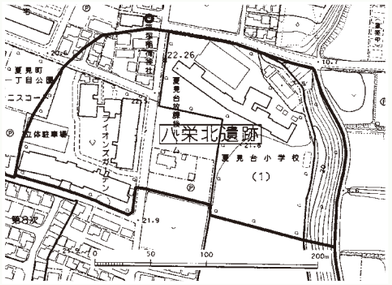
会期中にいただいたアンケートでは、「市外」や「県外」からの方が 6 割を占め、「はじめての来館」との回答が 5 割でした。また「取掛西貝塚のすごさがわかった」や「縄文人の生活や使用方法を復元した展示が素晴らしい」などのご感想をいただきました。

平成 30 年度は、企画展をきっかけに郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館へ初めて来たという方や、市外からの来館者も多く、新たな来館者層の開拓につながりました。今後も、多くの方にお越しいただけるよう、より魅力的な企画展を開催していきます。

船橋遺跡風景今昔 2

～八栄北遺跡～

八栄北遺跡のあらまし



八栄北遺跡の範囲

当遺跡は夏見台２丁目（発掘当時夏見町２丁目）にあります。北谷津川と長津川にはさまれた夏見台地の北東部に位置しています。夏見台小学校の建設に伴い昭和 47 年 (1972) に発掘調査されました。翌年の昭和 48 年、夏見台小学校は開校します。

遺跡全景　北西部からの航空撮影

12,000㎡の調査区域内から次のような遺構や遺物が発見されました。

- 縄文時代前期の竪穴住居跡　９軒
- 古墳時代の竪穴住居跡　７軒
- それ以後の竪穴住居跡　１軒
- 黒浜式、浮島式の縄文土器と石器類
- 鬼高式および国分式の土師器（はじき）と砥石（といし）、滑石（かっせき）類

夏見台地上内の遺跡の中では本遺跡は一番古い時期に属するものと考えられます。当台地上に縄文時代前期にはすでに人々が居住していたことが確認されました。

また、古墳時代後期に属する土師器は完形品、推定復元可能なものが 70 点あまり出土しています。

古墳時代竪穴住居跡の発掘状況

八栄北遺跡周辺の今昔

台地東側下からの風景 昭和 47 年 (1972)

正面の台地上が八栄北遺跡。台地斜面には樹木が茂る。斜面を上る坂道の下部分が確認できる。

同位置からの現風景 平成 31 年 (2019) 2 月

遺跡の地に夏見台小が建つ。斜面の樹木は残っている。手前の水田は畑となり、その先は住宅地に変貌しつつある。小学校北側の急坂は同位置に現存する。

（参考）『八栄北』1974　船橋市教育委員会　(Y.M)

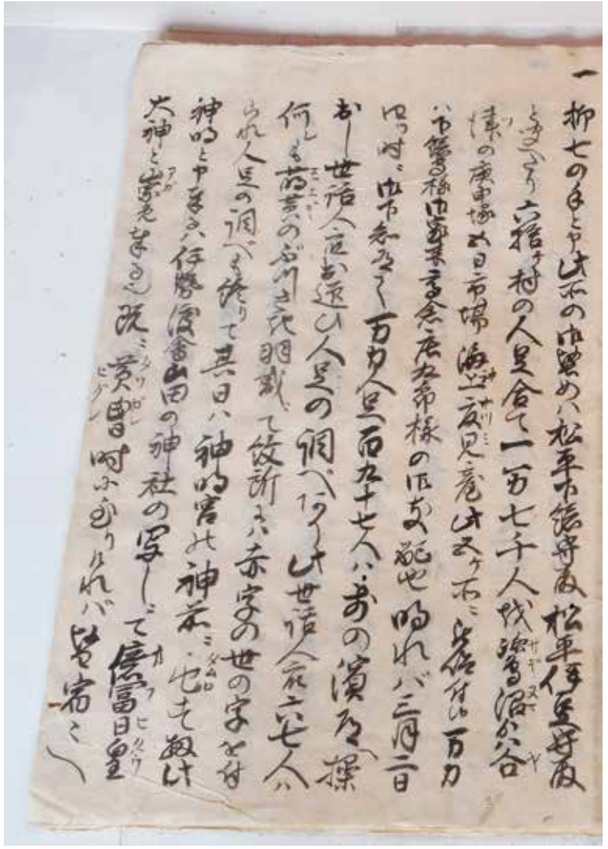
「カイジン」という地名、書けますか？

――下総国香取郡万力村（現旭市）『御猪狩記録』――

『御猪狩記録』表紙
「金杉佐右衛門」「心得」と書かれています。

一抑七の手と申此所の御堅めハ、松平下総守殿、松平伊豆守殿と聞へたり、六拾ヶ村の人足合て一万七千人を鷺沼ゟ谷津の庚申塚、五日市場、海上、夏見臺、此五ヶ所ニ被仰付候、万力ハ下総守様御家来高倉庄九郎様の御支配也、明れバ三月二日四ツ時ニ御下知有て万力人足百九十七人ハ前の浜道へ操出し、世話人衆出迎ひ人足の調べあり、此世話人衆六七人ハ何レも萌黄のぶつさき羽織ニて、紋所にハ赤字の世の字を付られ、人足の調べも終りて、其日ハ神明宮の神前ニ屯す、扨此神明と申奉るハ、伊勢度会山田の神社の写しニて億冨日皇大神と崇め奉る也、既ニ黄昏時に至りけれバ、皆宿々へ引取るべしとの御下知なり

※　翻刻の最終行は裏面



上の写真は、千葉県旭市の旧家で保管されている、嘉永2年（1849）の正月から2月頃にかけて、下総国香取郡万力村（現旭市）に住む百姓がまとめた『御猪狩記録』という古文書の一部です。書名は、写真以外の部分に「猪見」と「鹿見」という表記があるので、「おししがりきろく」と読むと考えられます。

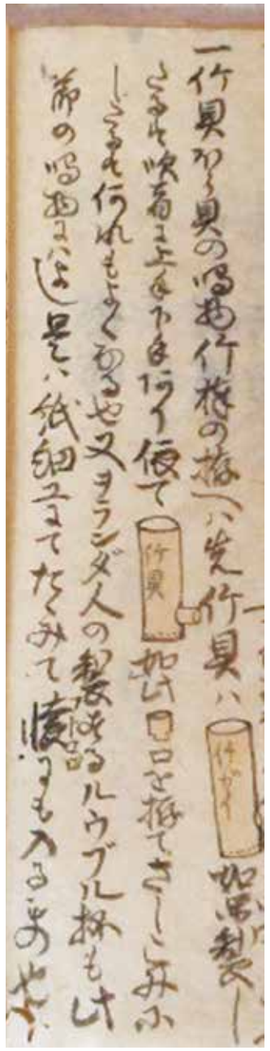
写真の右から3行目には、五日市・海神・夏見台という、船橋市内の地名が見られます。また、左から3行目以降には、意富比神社（船橋大神宮）についての記載もあります。船橋市から約60kmも離れたところに、なぜ船橋市域のことが書かれた古文書があるのでしょう？

その理由は、江戸時代の船橋市域に、幕府の馬牧「小金牧」の一部があったことと関係しています。

表紙をめくると、本文の冒頭で、執筆の意図が説明されています。そこでは、来る3月に小金原で「御猪狩」（鹿狩り）が行われるので、自分が覚えていることや書物に書かれていることなど、村人が心得ておくべきことを記すと述べられています。

左のページの写真は、先例である寛政7年(1795)の鹿狩りの時に、獲物を逃がさずに追い込むための人足（勢子人足）として動員された、万力村の197名の動向を記した部分です。鹿狩りを2か月後に控えた、自分より若い村人たちの参考にするため、嘉永2年当時数え年で69歳の作者は、54年前の事例を詳しく記しています。

『御猪狩記録』には、下の写真のように、絵入りで道具について説明している部分もあります。百姓が書いた詳細な鹿狩りの記録として、今後、鹿狩りや牧に関する研究で、注目されていくと考えられます。



一竹貝ほら貝の鳴物竹棒の拵へハ、先竹貝ハ［図］如図製し
たるは、吹者に上手下手あり、依て［図］如レ此［図］口を拵てさしこみに
したるは、何れもよくなる也、又ヨランダ人の製するルウブル抔も此
節の鳴物にハよし、是ハ紙細工にてたゝみて懐にも入るもの也

また、江戸時代の船橋に関する記録として、読み解くこともできます。

右から3行目の地名表記に注目してみましょう。飛ノ台史跡公園博物館がある「海神」を、一度「海上」と書いてから、後で「神」に訂正しています。『御猪狩記録』の作者が参照した書物に「海上」と書かれていたのかも知れませんが、江戸時代の旭市域で暮らした人々にとって、「海神」という地名があまり馴染み深くなかったのは確実です。

五日市場　海上神　夏見臺

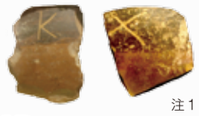
また、「五日市」ではなく「五日市場」、「意富比」ではなく「億冨日」と書かれた古文書は、船橋市内では、あまり見ません。

『御猪狩記録』の作者が暮らしていた香取郡万力村の東は海上郡です。また、南西には八日市場村（現匝瑳市）、南東には十日市場村（現旭市）があります。推測の域を出ませんが、「カイジン」を「海上」と書いた背景に、江戸時代の旭市域で暮らした『御猪狩記録』の作者と、今の船橋で暮らす私たちとの、「身近な地名」についての感覚の違いを読み取ることができるかも知れません。

『御猪狩記録』は、船橋から離れたところで作られ、今日まで保管されてきた鹿狩りの記録です。筆者も、船橋市郷土資料館の学芸員になるまで、本稿で述べた船橋の地名表記の特徴を意識しませんでした。

古文書は、見方によって、いろいろな情報が引き出せます。ぜひ、ご自身ならではの関心に即して、展示や講座などで紹介される古文書と向き合ってみてください。　(O.M)

—友好都市西安（中国）の半坡（バンポー）遺跡—


注1

はじめに

2019年11月に、友好都市となってから四半世紀が経過する中国・西安市にある半坡（バンポー）遺跡を紹介します。西安市は、かつては長安と呼ばれ、現在は陝西省の省都、人口約883万人、面積1万㎡、西北地方最大の都市であり、この地方の政治・経済・産業・文化の中心地です（第1図）。西安の歴史は、西周がここを都と定めた約3,100年前より、秦・漢・隋・唐など12の王朝の都として栄えました。現在も市の中心部は、明代の城壁に囲まれており、地下街や地下通路の整備を積極的に採用した開発により、当時の景観を保存する試みが取られています。船橋市と西安市の交流は、昭和57年（1982）11月に首都圏の商業活動の視察のため、張鉄民西安市長（当時）一行が船橋市を訪問したのが始まりです。昭和63年（1988）4月26日に「船橋市・西安市友好交流促進合意書」を西安市で調印、その後、平成5年（1994）年11月2日に市民294名からなる「船橋市友好親善使節団」（市長団長）が西安市を訪問し、友好都市提携調印して、正式に友好都市になりました。

1．西安・半坡遺跡

今回、紹介する半坡遺跡は、中国の教科書（齐編2016）にも載るほど著名な遺跡です。半坡遺跡は、西安市の中心部より東へタクシーで約30元（500円）、30分程度の距離です[注2]。黄河の南側に位置する、黄河文明の1つ仰韶（ヤンシャオ）文化（約6,000年）の大集落です。同省の華県（ホワシェン）では、ネコを使ってネズミの駆除を行っていた約5,300年前の泉護（チュエンフー）遺跡があります。約6,000年前は、日本と同様に、黄河流域でも温暖な気候とされています。日本では縄文時代前期にあたり、市内では取掛西貝塚（4）地点や向遺跡などが該当します。

半坡遺跡は、1952年に発見され、中国で初めて大規模な新石器時代の遺跡として注目されました。1954年から1957年にかけて発掘調査が行われた後に、1958年に博物館や展示場が建設されました（第2・3図）。

住居跡46軒、貯蔵穴200以上、墓247基、陶（とう）窯（よう）遺構6基がみつかり、約1万点以上の遺物が出土しました。

居住区には環濠が設けられ、北側に墓地、東側に陶窯遺構がみつかっています。陶窯遺構は、土器を焼くための遺構ですが、その造りは飛ノ台貝塚の炉跡とよく似た構造をしています（第4図）。

第1図　中国における先史時代の重要な遺跡

第2図　半坡遺跡と展示場

第3図　展示場内

2．半坡人の生活

遺物は、国宝である「人面魚紋彩陶盆（じんめんぎょもんさいとうぼん）」（第5図）などの彩色（さいしょく）土器や鋤（すき）などの農具、鏃（やじり）や矛（ほこ）などの狩猟具である石器、精巧（せいこう）な骨針（こっしん）や骨錐（こっすい）、またアワやヒエなどの穀物及びイヌやブタなどの家畜、シカ、ネズミ[注3]などの骨が出土しています。遺物の様相より、稲作ではなく、アワやヒエなどの雑穀を主体とする農耕及び狩猟を中心とする生業活動と推定されています。

3．半坡人の墓制

247基（成人用174、子供用73）の墓域（ぼいき）の中には、伸展葬（しんてんそう）（仰向（あお）け）、屈葬（くっそう）、二人もしくは四人での合葬、二次葬、甕棺での埋葬があります。特殊な事例として、「灰坑葬（フェイクンザン）」や「割体葬儀（クーティザンイー）」があります。

「灰坑葬」は、使用済みの貯蔵穴にぞんざいに遺体を扱った埋葬です。「割体葬儀」は、お世話になった死者のために自身の健康な指や足を切断し、追葬する儀礼です。日本の遺跡では、確認できない墓制があるようです。

4．半坡遺跡の貝類利用

海から離れている半坡遺跡ですが、小規模な貝塚が確認されています[注4]。しかしながら、船橋市の貝塚とは異なり、半坡遺跡では、淡水性の貝で構成されています。船橋市では、約1万年前の取掛西貝塚の汽水[注5]性貝塚を除き、全て海水性貝塚です。一方、半坡遺跡では、淡水性のシナマルタニシ *Bellamya(Cipangopaludina) chinensis chinensis* とイシガイ類 Unionoida sp. です（第6図）。イシガイ類は、殻体に穴をあけて、垂飾にしています（第7図）。

おわりに

友好都市西安市にある半坡遺跡について概観してみました。西安の歴史は、秦代以降が注目されがちですが、それ以前の新石器時代でも興味深い遺跡があります。船橋市の友好都市である西安市は、同じアジアの国の都市であり、今後も文化のみならず、学術的にも交流を進めていきたいです。本稿によって、友好都市の歴史にも興味を持って頂ければ幸いです。　（H.S）

脚　注

注1　半坡文字と呼ばれる土器に刻まれた記号。
注2　平成31年1月2日に調査。
注3　竹鼠と呼ばれる体長約50㎝の原始的なネズミ。
注4　貝殻の廃棄がある遺構であり、広義で貝塚の意。
注5　淡水と海水の混ざった水域。

参考文献

齐世荣 編 2016「第一単元 史前時期：中国境内早期人類与文明起源」『必務教育教科書 中国歴史 七年級 上冊』pp. 2-19
船橋市・ヘイワード市姉妹都市提携25周年事業実行委員会『船橋の姉妹・友好都市』

第4図　陶窯遺構の使用方法

第5図　中国の国宝・人面魚紋彩陶盆

第6図　半坡遺跡出土のシナマルタニシとイシガイ類

第7図 半坡遺跡出土の装飾品
骨角・歯牙や淡水・海水性の貝殻を材としています。

インフォメーション

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転席は、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【平成31年9月までの行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
2月1日㈮～5月19日㈰	くらしの道具展	郷土資料館 3階　第2展示室
6月22日㈯	地域史講座「牧と開墾」（仮） ※薬円台公民館と共催	薬円台公民館 （船橋市薬円台5-18-1）
7月9日㈫～9月8日㈰	企画展「二和・三咲開墾150年」（仮）	郷土資料館 3階　第2展示室
7月24日㈬	夏休み歴史見学会	ニュースパーク（日本新聞博物館）等

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせいたします。
都合により、日程・内容が変更になる場合があります。

協力：
船橋市華道連盟

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中に、小学校4年生から大人向けのワークショップを実施しています。
※詳細は毎月1日号の『広報ふなばし』でお知らせいたします。

【平成31年9月までの行事予定】

期　　日	行　　事　　名	会　　場
5月25日㈯	バスで訪ねる博物館見学会	茨城県自然博物館
7月20日㈯～9月1日㈰	第19回縄文コンテンポラリー展	飛ノ台史跡公園博物館

いずれも、詳細は『広報ふなばし』でお知らせいたします。都合により、日程・内容が変更になる場合があります。

ご利用案内・交通案内

郷土資料館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
住　所　船橋市薬円台4－25－19
電　話　047-465-9680
FAX　047-467-1399
Eメール　kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線　習志野駅下車徒歩10分

JR津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分

飛ノ台史跡公園博物館

開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料　一般100円（団体20名以上70円）
児童生徒50円（団体20名以上30円）
市内在住中学生以下　無料
住　所　船橋市海神4－27－2
電　話　047-495-1325
FAX　047-435-7450
Eメール　tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン（野田線）
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線　海神駅下車徒歩15分
東葉高速線　東海神駅下車徒歩12分

船橋新京成バス
JR船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩1分

休館日カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

□は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日　※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：平成31年（2019年）3月31日　船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真　約1万年前の取掛西貝塚の竪穴住居内貝層断面　神保君雄氏撮影